

都市に在る : 美術館的設計手法から考える 地下空間

山田, 日菜子 / YAMADA, Hinako

(出版者 / Publisher)

法政大学大学院デザイン工学研究科

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学大学院紀要. デザイン工学研究科編 / Bulletin of graduate studies.
Art and Technology

(巻 / Volume)

12

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2023-03-24

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030224>

都市に在る

－美術館的設計手法から考える地下空間－

reborn city

山田日菜子

HinakoYAMADA

主査 赤松佳珠子

法政大学大学院デザイン工学研究科建築学専攻修士課程

In modern society, where what is viewed is consumed, space is also fast-forwarded. By extracting latent elements of viewing space from the spatial composition of art museums and incorporating these elements into the city, we will create an urban space that is not consumed

Key Words : Times, City, underground passage

1. 研究の背景・目的

現代社会では映画を倍速で観ることやファスト映画が流行するなどタイムパフォーマンスが重視される。これは鑑賞するために作られている娯楽が消費されるようになったと言える。

美術館を訪れた際、人が集まり立ち止まる場所が集中していた。この経験から、鑑賞が消費に変化する現象は空間に対しても起こっていると感じた。

それは日常的にも起こっている。交通機関や道の発達により、目的地から目的地まで容易にたどり着くことができる。私たちは毎日の通勤や通学の時間を早送りしている。

日常を早送りすることで見落としている風景があるのではないか。早送りされない都市空間について考える。

2. 研究

2-1 美術館で鑑賞される空間と早送りされる空間

現代の人々が美術館で鑑賞している場所と早送りしている場所を明らかにする。

鑑賞している場所は「青森県立美術館」を対象に instagram でハッシュタグ検索をし、最新の 450 件の写真をもとに、撮影場所を地図に落とし込むことで明らかにする。(図 1)

450 枚の写真のうち 80 枚は美術館を代表するオブジェ『青森犬』を撮影したもので、そのほかの写真も展示室内や展示品を映すものがほとんどで、撮影場所には偏りがある。(地下 1 階は展示室内で撮影禁止のため少ない) 部屋をつなぐ動線での写真や、撮影者が自分なりの視点を発見しているような写真は少ない。

この結果から青森県立美術館は消費されていると考えられる。

次に、鑑賞されるべきだが人々が早送りしている空間を明らかにする。

自身が「青森県立美術館」を訪れた際に撮影していた写真をもとに、撮影場所を地図に落とし込む。(図 2)

SNS に載せられている写真は展示室内や展示作品を映したものがほとんどなのに対して自身が撮影した写真は、展示室を接続する空間や狭い空間を多く映している。

都市の中でもこのような空間が、鑑賞されるべきだが早送りされていると考える。

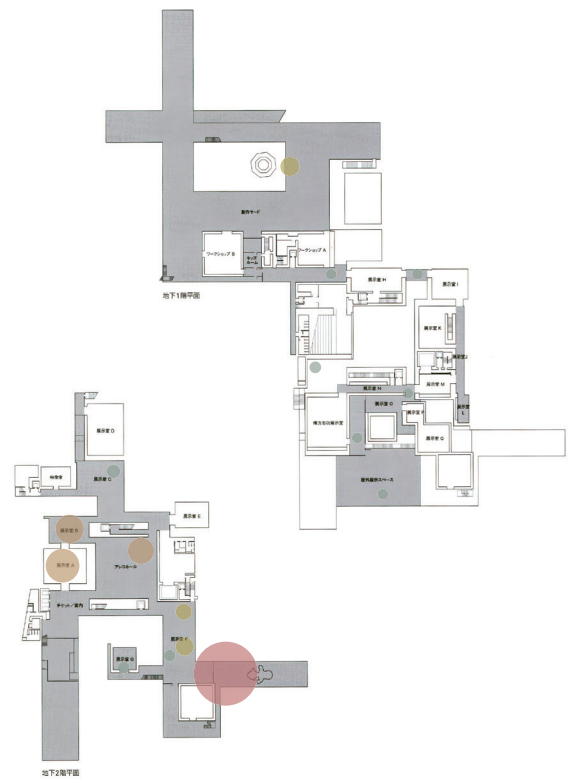
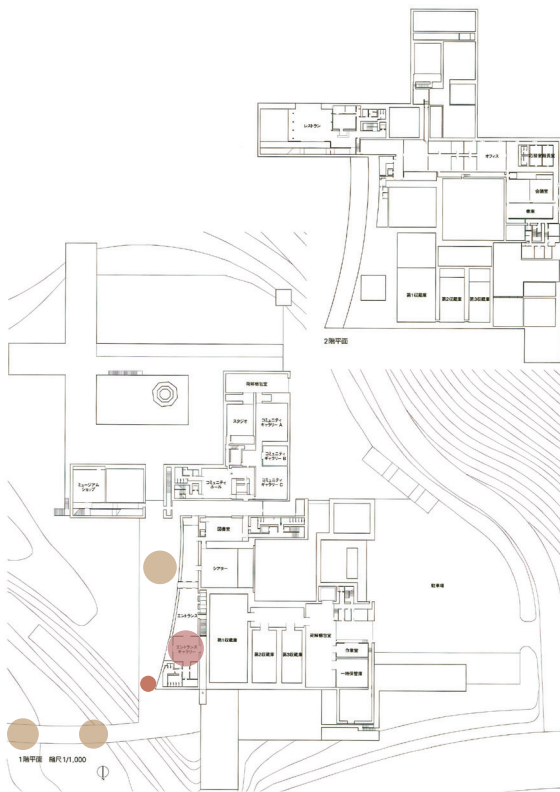


図 1

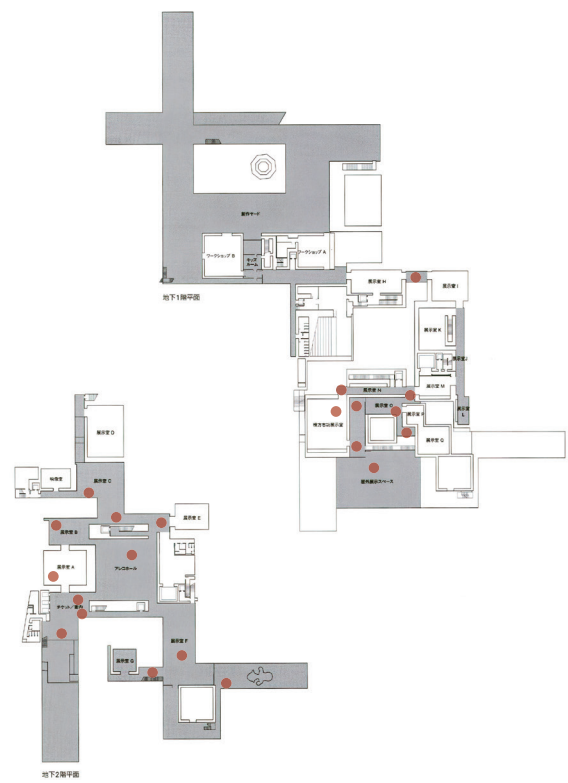
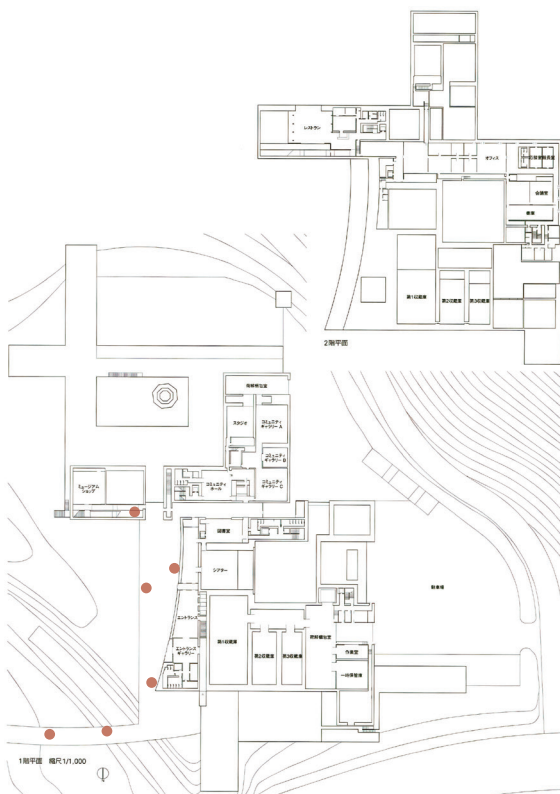


図 2

2-4 鑑賞されるべき空間の分析

自身が青森県立美術館で撮影した写真を、撮影した理由となった要素で分類していく。(図3)

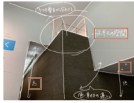
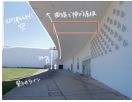
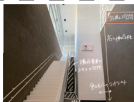
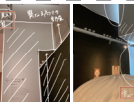
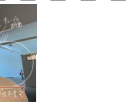
A スケール	A-1 強弱がある								
	A-2 身近にないスケール								
B 動き	B-1 異なる時間軸が交わる								
C 空間構成	C-1 境界に工夫がある								
	C-2 構成要素が多い								
	C-3 変化がある								
D 色彩	D-1 コントラストがある								
	D-2 統一されている								
E 建築外部との関係	E-1 光が入る								
	E-2 風景が見える								

図 3

3. 結論

青森県立美術館のsnsの写真の分析により、人々は緻密に設計された美術館でも早送りをしていることがわかった。特に、展示室の無い場所や通路が早送りされていた。

そして鑑賞されるべきだが早送りされている空間は5種類の大きな項目に分類できる。

4. 展望

分類された、鑑賞されるべき空間の要素を組み合わせることで、『早送りしない豊かさ』に人々は気が付くのではないかな。

5. 参考文献

- ・映画を早送りで見ると人々
- ・美術館をめぐる対話

